

C 広葉 葉や花は総て互生する

D 広葉 生時に葉表は側脈・細脈が凹み、やや皺状

E葉裏の中脈上に白または黄濁毛を多少残存する;黄濁毛は、僅少-やや明らか;葉裏は後無毛 新枝ははじめ密毛あり

F葉裏(中脈除く)は初め少毛散在;低波鋸歯-低鋸歯-弧状鋸歯〔シバヤナギ節キツネヤナギ亜節2〕

(Gはミヤマキツネヤナギをキツネヤナギの子房に毛のある1型とし、Yはサイコクキツネヤナギを花序がない時期はキツネヤナギとの識別無理とする。筆者はミヤマキツネヤナギ、サイコクキツネヤナギが未検証であるが、本グループはキツネヤナギを中心に捉えて問題ない)と判断し、この項を記述する;山口)

G葉表に後まで綿毛が残る

(SG,奥羽以北、高山)(低木)【ミヤマキツネヤナギv=ウスゲショウヤナギ】

(G;キツネヤナギの子房にやや細軟毛が微毛がある1型)

G葉表に綿毛は残らない

(SGHKTY,中部以北、山野)(低木;葉23広)【18キツネヤナギ】

(SGHY,近畿以西、山野)(低木;葉233広)【19サイコクキツネヤナギ】

新葉は脱落性の毛に被われ、中肋残しすぐ少毛

葉表は微毛散在からすぐ無毛(綿毛は残らず)、中肋は微毛密生 ほぼ無毛

葉裏は少毛散在 ほぼ無毛、中脈はやや多毛 毛散在

(黄濁毛は、やや明らか~裏中脈に僅少、など変化あり明確でない場合もある)

表濃緑;裏粉白か淡緑

生時葉表は中脈・側脈・細脈ともに凹感、やや皺感あり(押すと平坦)

;裏中脈・側脈は凸、細脈は微凸、やや肋脈(注)

低波鋸歯-低鋸歯-弧状鋸歯;時に乾くと縁が極細く裏に反る

葉は倒卵-長楕円形、50-120mm、巾25-55mm;最大巾は中央より先寄り

葉柄は若葉で上面密毛 微毛残る;毛は次第に脱落する 葉柄10-15mm

托葉は鈍鋭頭、曲(偏)卵形、鋸歯縁(縁は裏に反る)、無毛;基部の腺はなしか少数;早落性

新葉は赤味あり;側縁は裏巻きせず

新枝は微毛密生 やや無毛、芽に褐毛密生(芽や若枝でやや黄濁毛あり)

;毛は次第に脱落 1年枝は無毛か微毛あり 隆起条密

《キツネヤナギ》

(H;下出葉、成葉、苞などにある鉄錆色の毛が特徴的である)(T;乾いて表面は鉄錆色)(Y;オオキツネヤナギと比し、最大巾位置は先端寄り)

(M55;最近の知見で千葉にあるが、北の形に一致しない)

(T;小泉源一の変種ランクが数多くある。ミヤマキツネヤナギ、ニッコウキツネヤナギ、ケキツネヤナギ、ミチノクキツネヤナギ、オクキツネヤナギ。これらはキツネヤナギのシノニムか下位のタクサ或いは他種との種間雑種であろう。これらの研究はこれからの課題)

変品種;【オニキツネヤナギv;(S,群馬・北信・北陸、山野)成葉の裏に毛多い】オクキツネヤナギv;(S,本中部・北部)葉大型、短毛は主脈に残る】

《サイコクキツネヤナギ》

(H;キツネヤナギに極く似ているが、花穂の基部の下出葉を欠くか、或は発達が悪く極小さいこと、雄花穂が短くて太いことなどで異なる)

(Y;花序がない時期はキツネヤナギとの識別無理で産地が決め手になる)

(G;キツネヤナギによく似て、葉形、毛色、花序色なども近縁を示し、キツネヤナギの変種か亜種が適当と思う)

変品種;【カンサイキツネヤナギv;(S,近畿以西)苞は無毛】(T;サイコクキツネヤナギはキツネヤナギの変種亜種ランクのもので、カンサイキツネヤナギもその1品か同物であろう)

参考;キツネヤナギとサイコクキツネヤナギとの記述の違い抜粋

キツネヤナギ ; 成葉50-120mm、巾25-55mm、倒卵形-長楕円形

葉柄10-15mm 1年枝は無毛か、微毛、後無毛

サイコクキツネヤナギ; 成葉50-70(Y120)mm、巾25-33(Y55)mm、倒長楕円卵形-長楕円形

葉柄6-9(Y5-13)mm

若枝に縮毛あり、後無毛(新葉側縁、G裏に巻く、Y巻かない)